



TITLE:

大学教育の改善に関する京大教官  
の意識(<第1部>調査の統計データ  
・2高等教育教授システム開発セン  
ターについて)

AUTHOR(S):

---

CITATION:

大学教育の改善に関する京大教官の意識(<第1部>調査の統計データ・  
2高等教育教授システム開発センターについて). 京都大学高等教育叢書  
1999, 5: 30-39

ISSUE DATE:

1999-03-31

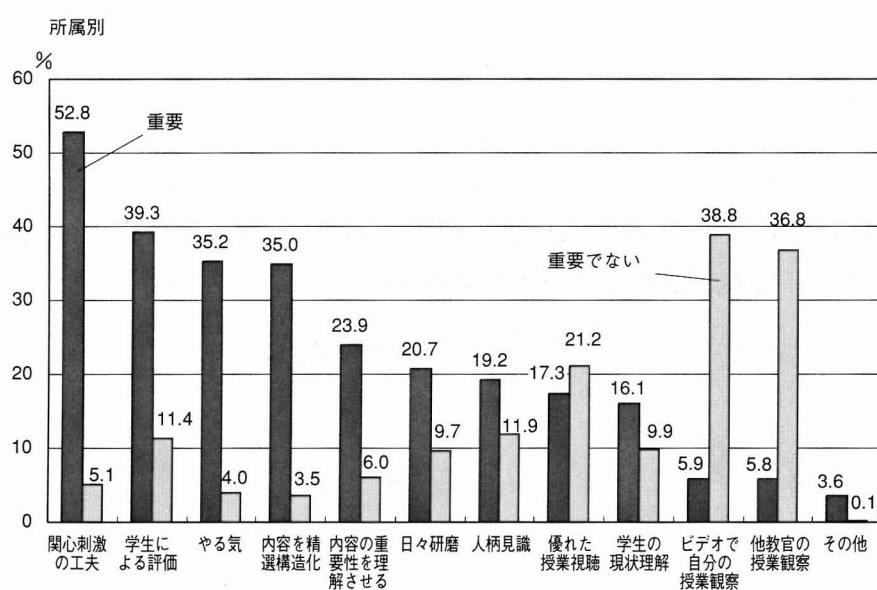
URL:

<http://hdl.handle.net/2433/53931>

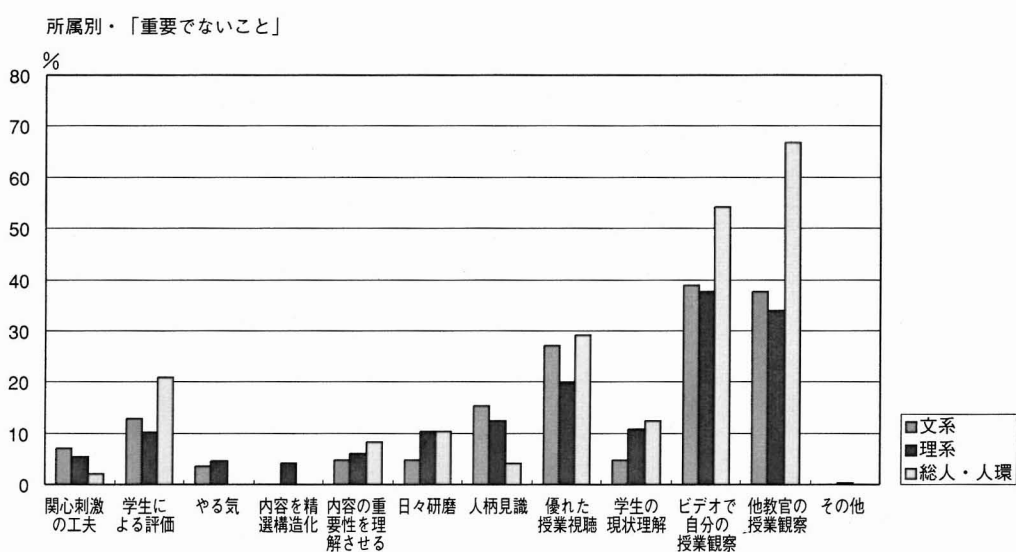
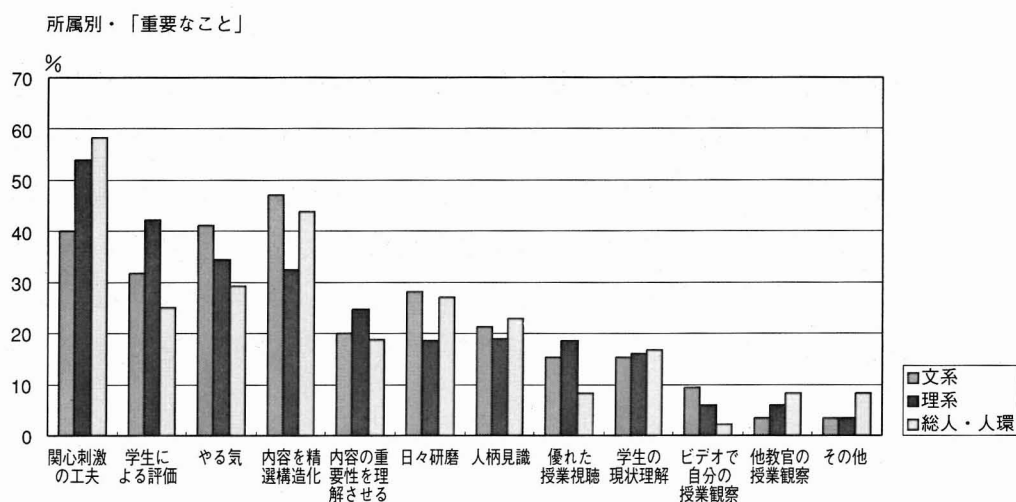
RIGHT:

⑬ 授業改善に重要なこと、重要でないこと

重要なのは、学生の関心・好奇心を刺激するものとなるような工夫、学生の評価に基づく工夫。  
重要でないのは、自らの授業の視聴。

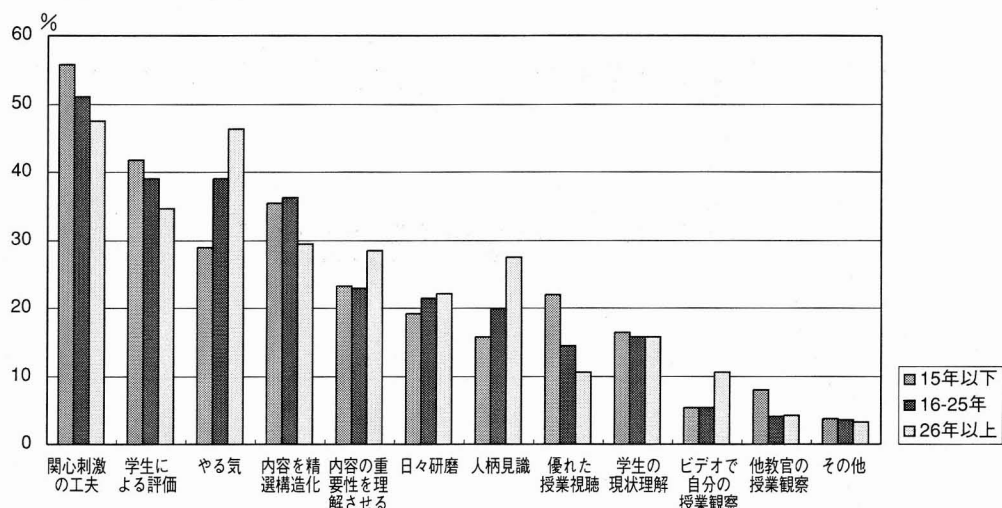


授業改善のために重要だと思うことを聞いたところ、第1位は「学生の関心・好奇心を刺激するものとなるように授業内容を工夫すること」であり、第2位は「授業に関する学生の評価結果を参考にして新たな工夫をすること」、第3位は「授業に対する教官の熱意、気力、やる気を高めること」であった。逆に、重要でないと思うことを聞いたところ、第1位は「ビデオ等によって記録された自らの授業を視聴すること」であり、第2位は「他の教官によって行われる授業を観察すること」、第3位は「優れた授業を視聴すること」であった。授業改善については、未だ、個人的努力に依存する傾向が強いと言えそうである。

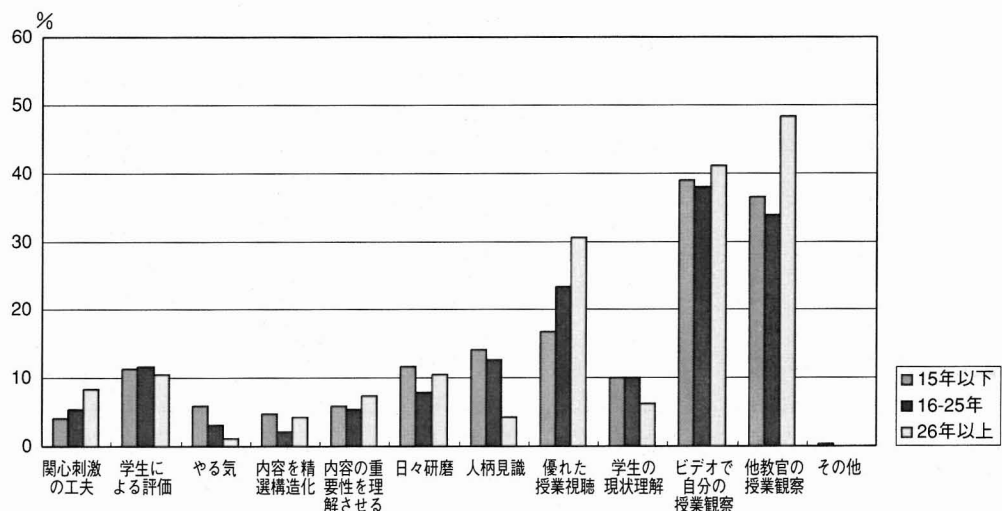


上位の項目でも所属によって違いがみられる。まず重要だと思われるものについて。「学生の関心好奇心を刺激する工夫」との回答は、理系（53.9%）総人・人環（58.3%）にくらべ、文系（40.0%）に少ない。「学生の評価結果を参考」との回答は、文系（31.8%）総人・人環（25.0%）にくらべ、理系（42.2%）に多い。「教官の熱意、気力、やる気」との回答は、文系（41.2%）に多く、総人・人環（29.2%）に少ない。次に重要でないと思われるものについて。「ビデオ等で自らの授業を視聴」および「他の教官の授業を観察」との回答は、文系（38.8%、37.6%）理系（37.6%、33.9%）にくらべ、総人・人環（54.2%、66.7%）に多い。

教育歴別・「重要なこと」



教育歴別・「重要でないこと」

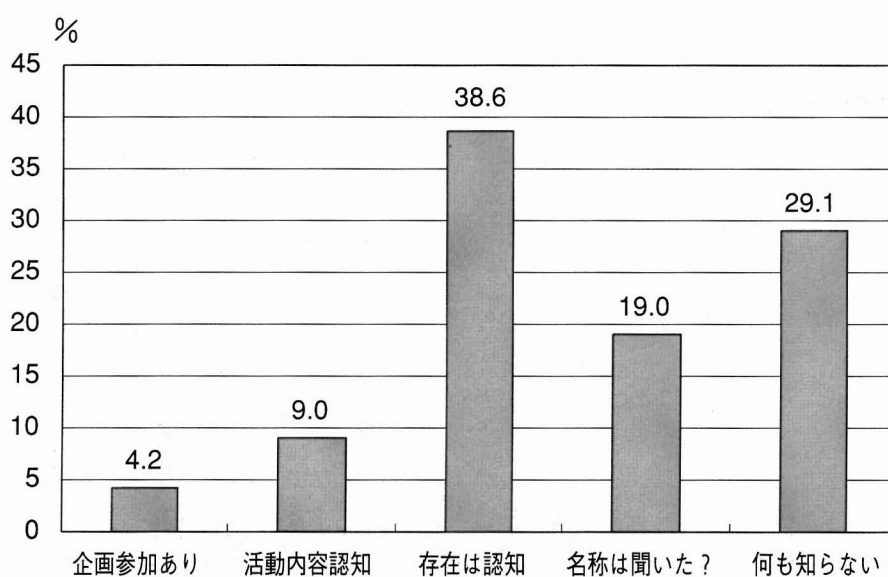


教官の教育歴で見ても興味深い違いがみられる。まず重要だと思われるものについて。「学生の関心好奇心を刺激する工夫」および「学生の評価結果を参考」との回答は、15年以下（55.7%、41.8%）16－25年（51.1%、39.1%）26年以上（47.4%、34.7%）と教育年数に反比例して少なくなる。逆に「教官の熱意、気力、やる気」との回答は、教育年数に比例して多くなる（28.9%、39.1%、46.3%）。次に重要でないと思われるものについて。「他の教官の授業を観察」および「優れた授業を視聴」との回答は、15年以下（36.5%、16.7%）16－25年（33.8%、23.3%）にくらべ、26年以上（48.4%、30.5%）に多い。

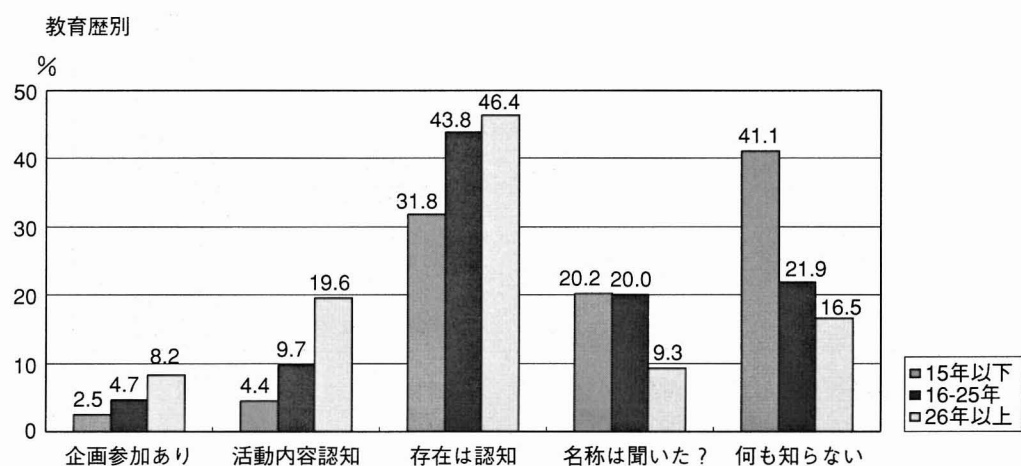
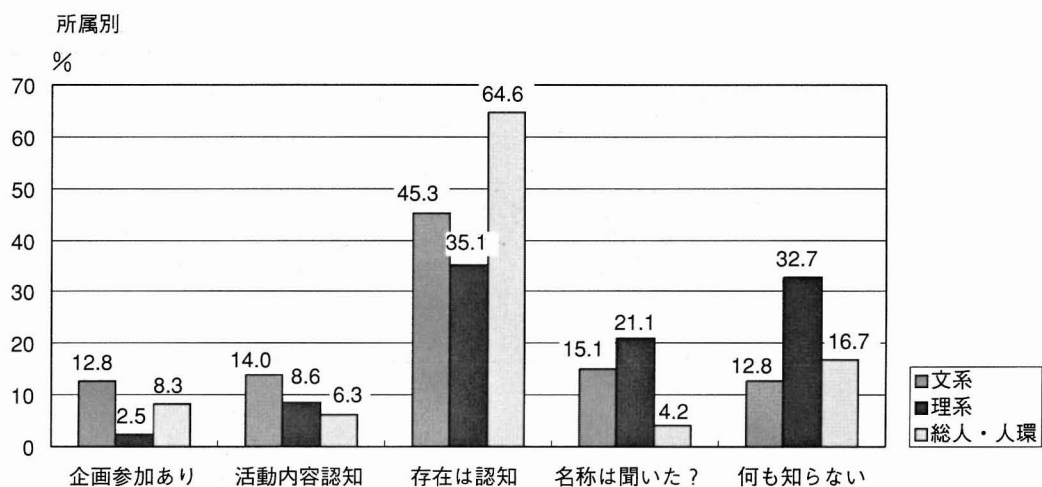
## (2) 高等教育教授システム開発センターについて

### ① センターを知っていますか？

知らない教官が半数近く



学内共同教育研究施設として「高等教育教授システム開発センター」があることについて聞いたところ、存在することは知っているという答にまで広げれば51.8%となる。しかし、大学教育改革フォーラム、公開研究会等の企画に参加したことがある教官、主要な活動内容を知っている教官は、13.2%に留まり、我々として一層の努力が求められている。

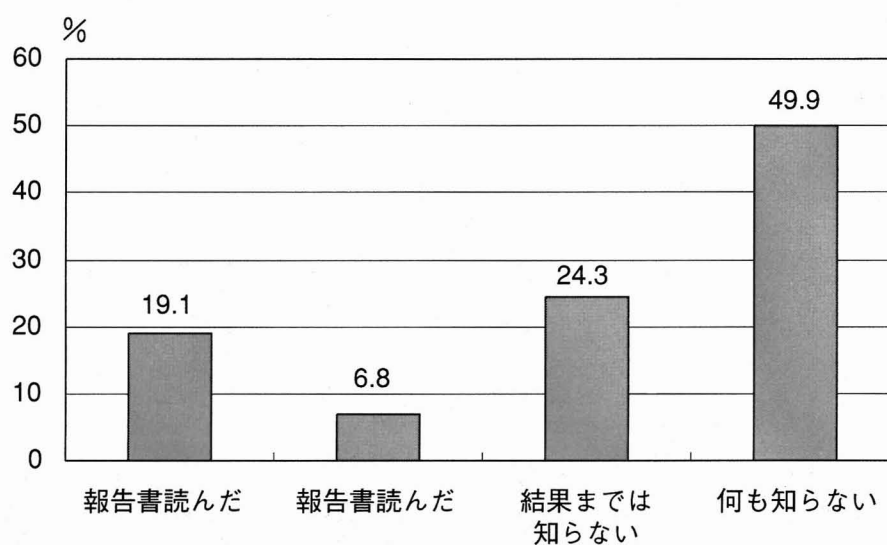


「センターの名称を聞いたことがあるような気もする」または「何も知らない」との否定的回答は、文系（27.9％）総人・人環（20.9％）にくらべ、理系（53.8％）に多い。

教官の教育歴で見ると、「センターの名称を聞いたことがあるような気もする」または「何も知らない」との否定的回答は、15年以下（61.3％）16－25年（41.9％）26年以上（25.8％）と教育年数に反比例して少なくなる。逆に「センターの諸企画に参加したことがある」または「主要な活動内容も知っている」との肯定的回答は、教育年数に比例して多くなる（6.9、14.4、27.8）。

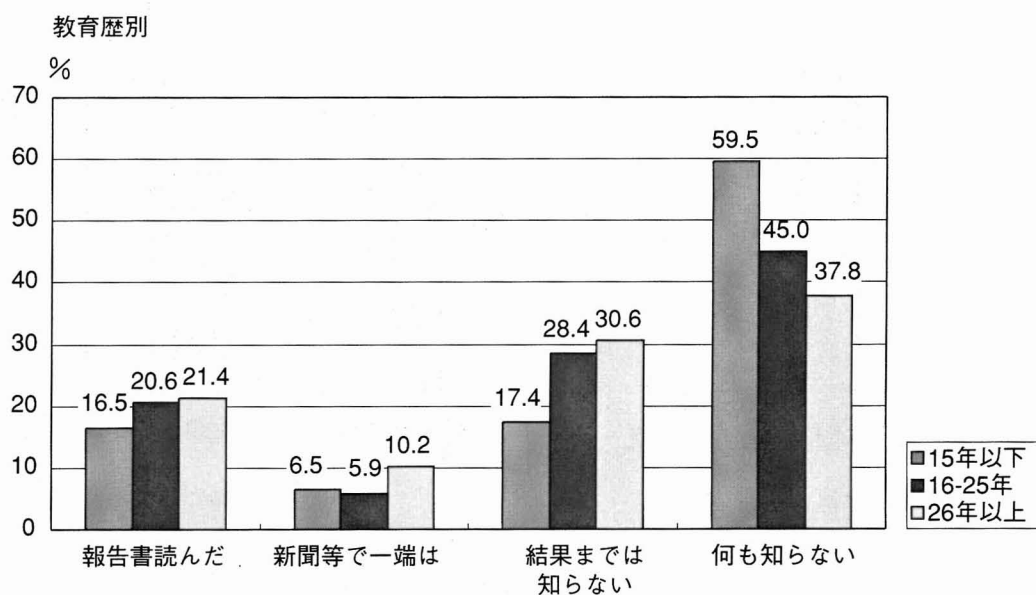
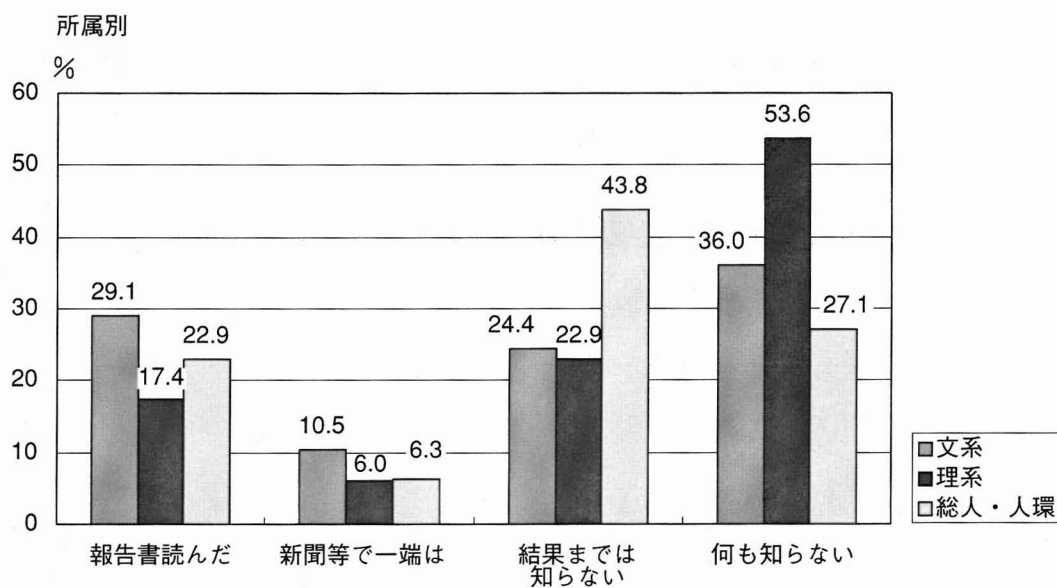
② 「京都大学卒業生の意識調査」を知っていますか？

知らない教官が半数



センターでは、平成8年5月に、本学の文・法・医・工の各学部の卒業生を対象として大学卒業の効果、そこにおける教育の役割等を探ることを目的としてアンケート調査を行い、平成9年3月にこの高等教育叢書の第1巻『京都大学卒業生の意識調査』として公表した。当時新聞等に取り上げられたため25.9%の教官が少なくとも結果の一端は知っているが、残念ながら49.9%の教官は知らないとのことである。



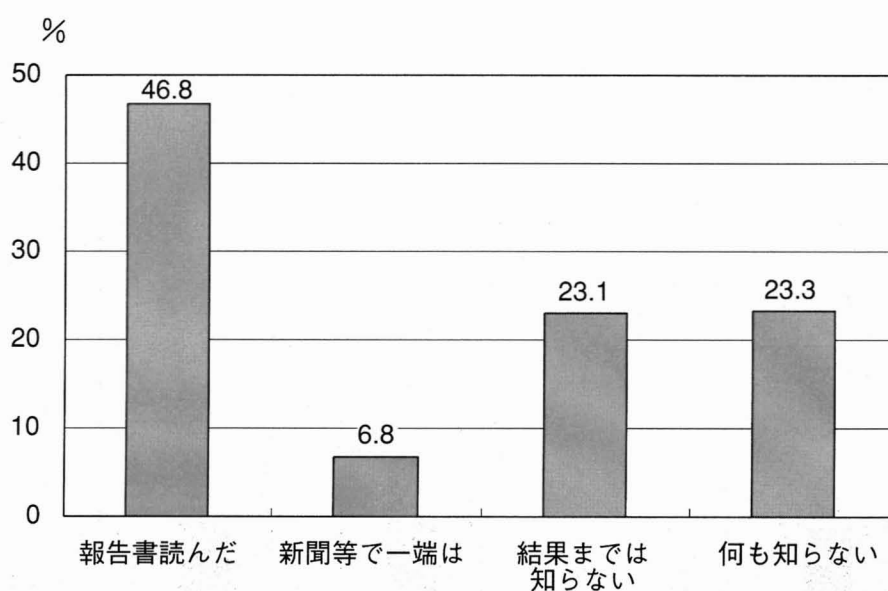


「報告書を読んだ」または「結果の一端は知っている」との回答は、理系（23.4％）総人・人環（29.2％）にくらべ、文系（39.6％）に多い。「何も知らない」との回答は、文系（36.0％）総人・人環（27.1％）にくらべ、理系（53.6％）に多い。

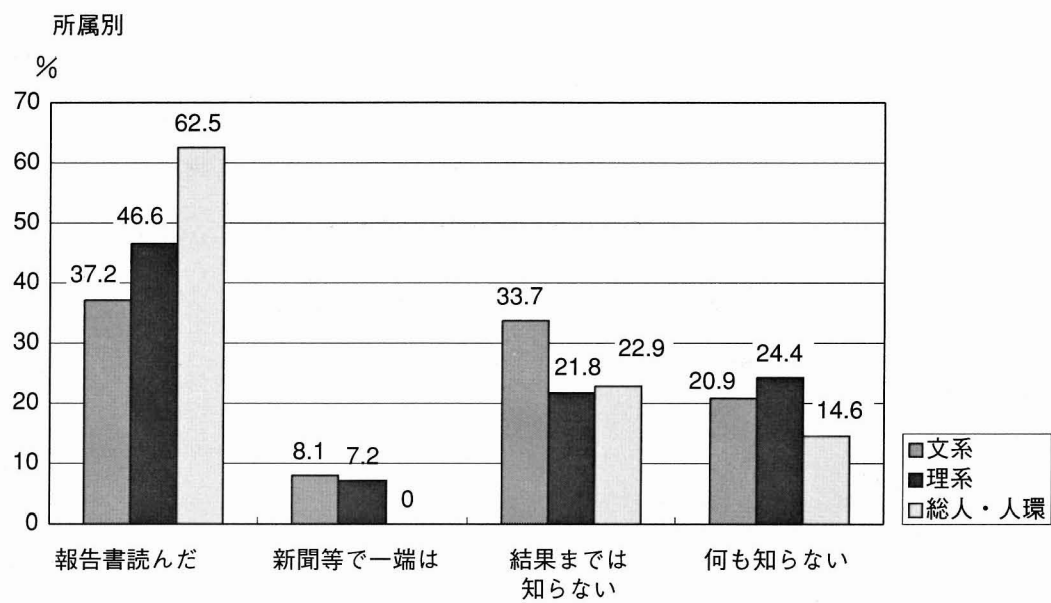
教官の教育歴で見ると、「何も知らない」との回答は、15年以下（59.5％）16－25年（45.0％）26年以上（37.8％）と教育年数に反比例して少なくなる。

③ 「京都大学の教育と学生生活」を知っていますか？

5割弱の教官が報告書を読んでいる



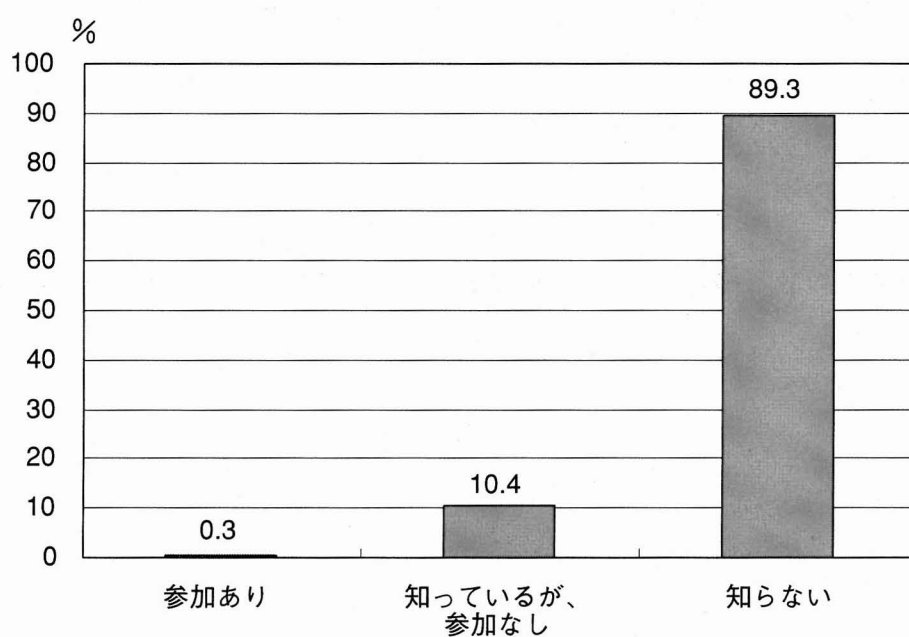
本学の全学共通科目レビュー委員会は、全学共通科目の問題点、学生の現状を把握するために、平成8年度の4回生全員を対象にアンケート調査を実施し、『京都大学の教育と学生生活』として公表した。報告書を読んだ教官は46.8%を数え、新聞等で調査結果の一端を知っている教官を併せると53.6%に上る。



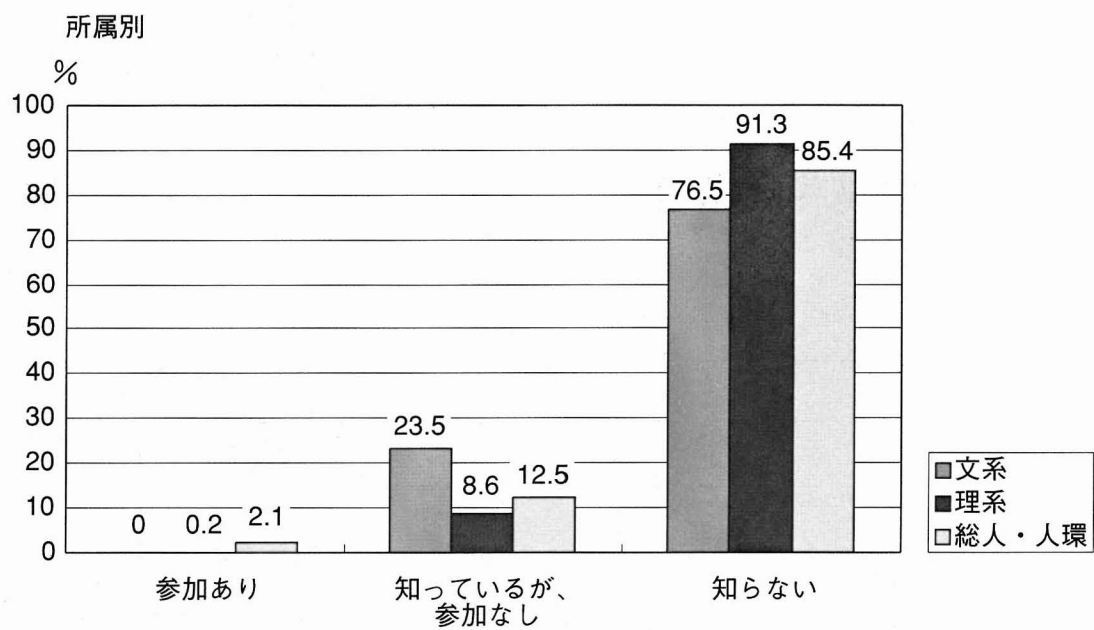
「報告書を読んだ」との回答は、文系（37.2%）理系（46.6%）にくらべ、総人・人環（62.5%）に多い。

④ 公開実験授業を知っていますか？

9 割弱は知らない



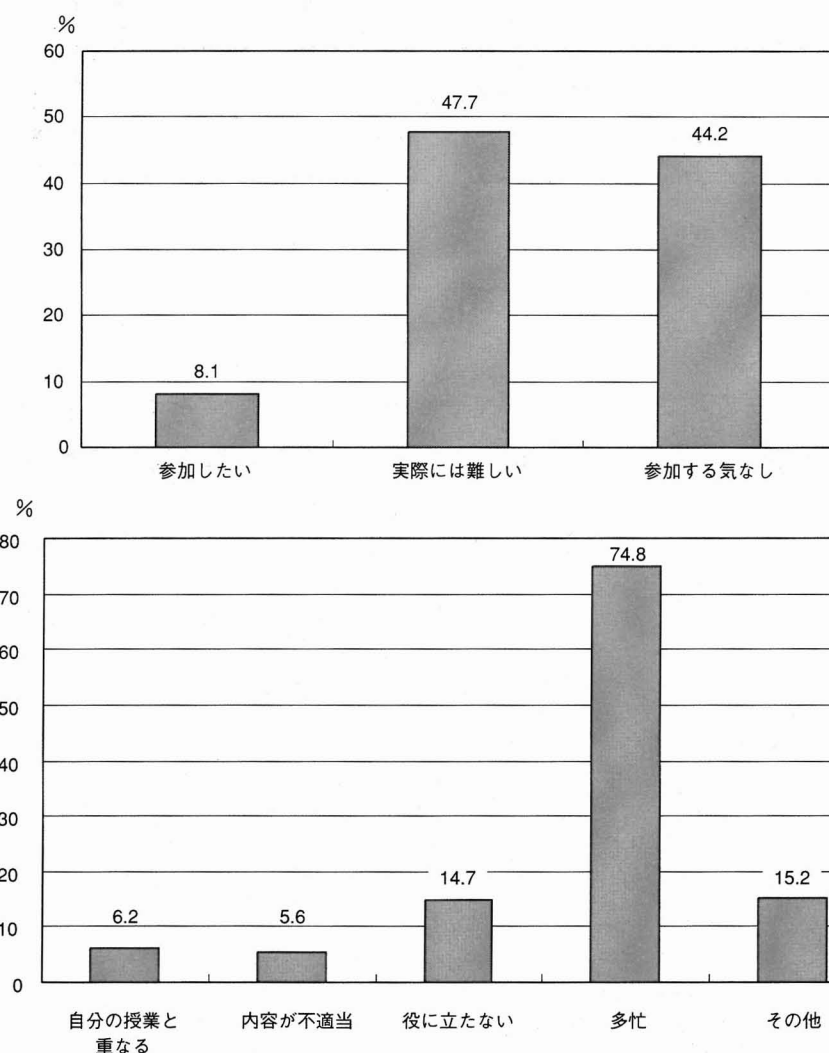
センターでは、平成8年4月から3年間に渡って、毎週月曜日4コマ目に公開実験授業「ライフサイクルと教育」を開講し、授業終了後、授業研究会を実施した。そのことを知っているかを聞いたが、知っている教官は、10.7%に留まった。平成11年4月からも同曜日にリレー形式で同様の試みが行われることになっており、広報に尚一層の力をいれる必要がある。



「参加したことがある」または「知っているが、参加したことはない」との肯定的回答は、理系（8.9％）総人・人環（14.6％）にくらべ、文系（23.5％）に多い。

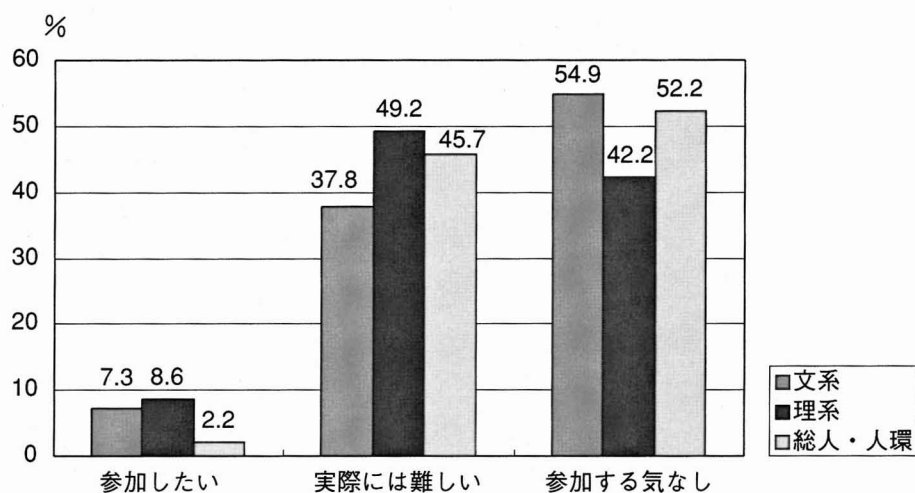
⑤ 公開実験授業に参加したいと思いますか？

参加したいは半数以上。しかし、実際には多忙で難しい。

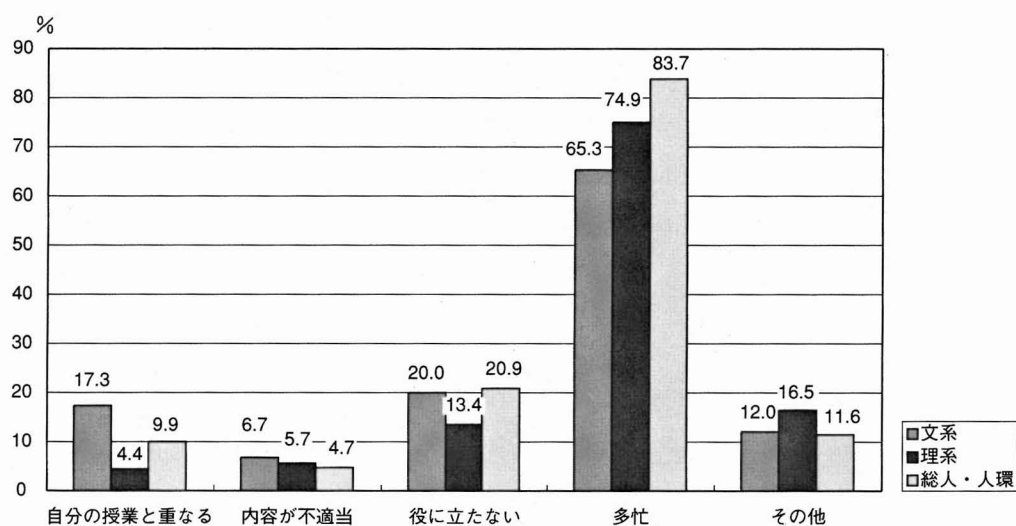


公開実験授業及び授業研究会への参加希望を聞いたところ、参加に前向きな答が55.8%に上ったが、実際には難しいとの答がほとんどであった。また、参加が難しい、または参加する気がない理由を聞いたところ、「非常に多忙で時間的余裕がない」とする答が74.8%であり、設問を考えた時点で多いと予想していた、公開実験授業の内容、形態が違うことによる効果への疑問「授業内容が自分にとって適当でない」「自分の担当している授業と形態が著しく異なっており、自らの授業改善には役に立たない」を提示する答は多くなかった。

所属別・「参加したいと思いますか？」



所属別・「参加が困難な理由」



「参加したい」または「参加したいが実際には難しい」との参加に肯定的な回答は、文系 (45.1%) 総人・人環 (47.9%) に比べ、理系 (57.8%) に多い。参加が難しい、または参加する気がない理由として「多忙で時間的余裕がない」との回答は、文系 (65.3%) 理系 (74.9%) 総人・人環 (83.9%) で若干の違いがみられる。